

岩手教区報

第394号
立教188年10月1日
天理教岩手教務支庁
盛岡市馬場町3-40
TEL 019-622-7962
FAX 019-623-9597



青年会委員長

村松義朗



教区青年会活動の上に、日頃何かとお力添えいただき、誠にありがとうございます。来たる10月25日、本部中庭に於いて、第99回「天理教青年会総会」が開催されます。今年の総会のテーマは「たすかり」です。多くの青年会員が、身上や事情を抱える人のたすかりを願って、おぢばへ帰り総会に参加できるよう呼びかけております。私はたすけた事より、圧倒的にたすけられた事の方が多いと感じています。

今から10年前までの約5年間、私は世間で言うところの「ニート」あるいは「ひきこもり」でした。おぢば管内の高校を卒業後自教会に帰り、自宅浪人をしてながら国立大学入学を目指す筈でした。小遣い欲しさに始めたコンビニエンスストアの夜勤のアルバイトでしたが、いつの間にかアルバイト中心の生活、いわゆるフリーターとなりました。その後アルバイトを辞めてからは、教会の御用を特段するわけでもなく、非常に非生産的な怠惰な生活を送っておりました。父である会長さんが朝づとめに起きる頃、私は反対に床に就き、昼過ぎにようやく起きてくるという様な毎日、そんな昼夜逆転の生活を送る中、段々と心も荒んでいきます。貯めたお金も段々と底を尽き、友人とも疎遠に

なり、どんどん心がふさぎ込んでしまいました。当時の私は、このどうしようもない現状を変えたいと心では思っていました。自分自身ではどうすることも出来ない状態だったと思い返します。

このような現状から救ってくださるきっかけをくれたのが、中学生時代の友人の存在です。1人は、自身の結婚式の友人代表スピーチを、ひきこもりだった私に敢えて奮い立たせるため、お願いしてくれました。もう1人は、ふさぎ込みがちな私に何度も直接会いに来てくれ、時にはハローワークで私に合いそうな仕事を探し、求人票をコピーして持ってきてくれました。この2人のほかに、家族をはじめ沢山の支えのおかげで、社会に無事復帰することが出来たのです。

たすかっていただきたいという温かい願いは、連鎖すると私は思っています。他者への温かい願いは行動となり、必ずやその人の胸に届くでしょう。そしてその温かさを胸に抱いて、また違う人に温かい願いを掛けることでしよう。

おぢばは、たすかる場所とお聞かせいただきます。誰かのたすかりを願って帰参する岩手の青年会員に、総会でお会いできることを楽しみにしております。



信仰随想

誠心

前岩手教区長

加藤昌弘

「おぢばがえり (二)」

おぢばは、ご存命の教祖がおられ、私たちを待ち下されている所です。お姿は拝することは出来ずとも、教祖の魂は永く踏みとどまり、働くことと仰せになっておられます。教祖は私たち人間の親であられますので、子どもである私たちがおぢばに帰るのを、待ち遠しく待っていておられます。お盆や正月など、遠く離れた子どもの帰りを待っている、実家の親と同じ思いなのです。

教祖伝逸話篇には、「待っていた」「よう来た」「よう帰ってきたなあ」など、優しく声を掛けておられる話が20篇以上あります。また、大雪の中を来る増井りんさん、船で遭難しそうになった土佐卯之助さん、そしてフラフを立てて帰ってくる諸井國三郎さんなど、遠くから帰ってくる人を、見抜き見通され、大変な中、危

ない処をお導き下されたのです。おそらく、ほかには載っていないだけで、帰って来た人全員に、必ずそのように声を掛けておられたに違いありません。

ある布教師の方が、海外からの初めての人をお連れして、神殿を案内し、詰所に戻った時に、その人から「赤い服を着た婦人が、参拝をしている一人ひとりに、肩を叩いて、話し掛けていました。あの人、誰ですか」と聞かれたとのこと。もちろん、教祖が赤衣を召しておられることは知るはずもなく、他の人は誰も見ていないのです。その布教師の方は、それは教祖に違いないと、深く感激したとのこと。

以前、友人から中国人の親子におぢばを案内してくれと依頼されました。私は都合がつかず、おぢばの知人をお願いしたところ、数日して連絡が入りました。その母親の方は目が不自由だったそうですが、2番目に入った所はとても暖かく、何かに包まれるような懐かしい心休まる思いだった、一体どういう所なの、と聞かれたとのことでした。2番目の所とは、それは正しく教祖殿のことであり、教祖が「よう帰って来ましたね」と優しく声を掛けて下さったのではと私は思っています。

親にとって、子どもがふるさとに帰っ

て来てくれるほどの楽しみ、嬉しさはありません。さらに孫までも連れて来てくれれば、その喜びは尚一層大きいものになります。人をお連れしておぢばに帰り、教祖に「よう帰ってきたなあ」と肩を叩いて、声を掛けて頂きたいものです。

教務支庁剪定ひのきしん

日時 10月16日(木) 10時~17日
内容 庭木の剪定、中庭の除草
※各支部の参加人数を13日迄に教務支庁にご連絡ください。

行事予定

【10月分】

1日 役員会議(10時)
4日 少年会例会(18時)
5日 陽気フォーラム(10時)
11日 青年会例会(18時)
16日 学生担当委員会例会(19時30分)
19日 剪定ひのきしん(10時)
30日 めんこいマルシェ(10時)
婦人会例会(11時)

「まなびば事前研修会」報告

教区学生担当委員会は、9月6日から7日にかけて、教務支庁を会場に12月に予定している「まなびば」の事前研修会を開催し、10人が参加した。

本部学生担当委員会より幸田正夫人材育成部長と諸井本部スタッフを招き、今



学生担当委員会

「教区研修会」報告



災 救 隊

災救援隊岩手教区隊は、8月17日(日)、教務支庁を会場に「教区研修会」を開催、教区班、支部班長ら7人が参加した。

午前11時開会。先ず高橋邦之隊長が挨拶に立ち、続いて活動方針をはじめ本年度の行事予定、教区・ブロック訓練の概要や教訓隊の役割分担などを説明した。その後、倉庫の資機材と物品の整理を行い、昼食後解散となった。

第5回「ようぼく」斉活動日

―教区会場一覧―



「ようぼく」斉活動日は、同じ地域に住むようぼくが集い、思召に心を揃え、互いに勇ませ合い、教祖140年祭に向かって、共に年祭活動の歩みを進める日です。

今回が最終回となります。ようぼくの方々は挙つてご参加下さい。

九戸	11月2日(日)	13時	陸中戸田分教会
二戸	11月2日(日)	10時	北福岡分教会
盛岡	11月1日(土)	9時45分	教務支庁
三陸	11月1日(土)	10時	宮古港分教会
花巻	11月1日(土)	13時	花巻分教会
奥州	11月1日(土)	9時30分	岩手原分教会
県南	11月2日(日)	13時	磐井分教会

◇参加御供 300円
◇プログラム

- ・開会挨拶
- ・おつとめ
- ・諭達拝読
- ・教会本部からのビデオメッセージ
- ・会場ごとのプログラム
- ・閉会挨拶



厚生部

「献血ひのきしん」報告

教区献血推進委員会は、8月31日(日)、教務支庁を会場に、「献血ひのきしん」を開催し、近隣住民9人を含む98人が参加した。

当日は午前8時から教区受入スタッフ37人が各部署に分かれて準備作業に取り掛かり、採血車はじめ日赤の担当者も教務支庁に次々に到着した。午前9時、県内各地から献血希望者が続々と参集。受付を済ませた者から順に採血車へと進んだ。



10時からの「防災セミナー」では36人が受講し、日本赤十字社岩手県支部事業推進課の種田伸吾救護係長を講師に、避難所の運営について講義が行われた。ダンボールベッドと避難所用テントの組み立てを体験す



青年会

「青森教区青年会リーダー研修会」

参加報告

教区青年会は、9月6日(土)、青森(於嘉瀬分教会)で開催された「青森教区青年会リーダー研修会」に、青年会員ら7人が参加した。

午後2時30分に開会。はじめに小田真二青森教区青年会委員長が挨拶に立ち、続いて青年会基本方針「心を澄ます毎日を一ほこりを減らし誠を増やす」をテーマに、青森岩手両教区から1人ずつ感話を行い、自らの思いと体験を熱く語った。

その後感話を受けて、青森と岩手のペアを作つて「対話」を実施し、互いに気づきを心得、それぞれ自身の信仰を深めた。



婦 人 会

「めんこいマルシェ」【10月19日】

教区女子青年は、10月19日(日)、教務支庁を会場に、「めんこいマルシェ」を開催します。

今回はお菓子のリース作りをします。多くの女子青年さんの参加をお待ちしています。

記

日時 10月19日(日) 10時～14時
会場 教務支庁
参加費 無料

※昼食を用意します。

※詳しくは各支部婦人会主任にお尋ね下さい。



る時間もあつた。

駐車場においては、「教区婦人会」のバザーと「丸萬商店」の冷麺が提供され、その収益の一部を日本赤十字社岩手県支部に寄付させて頂いた。さらに「紫波酒造」の清酒と甘酒、「レジュイール」のパンも販売された。

また、猛暑の中、盛岡支部婦人会から昼食として冷やしうどんが振舞われ、涼しげなお昼のひとときを過ごした。

半日開催となつた今回は、献血の受付をされた方は38人。内400ml献血に33人の方々のご協力をいただいた。なお、献血の受付をされた方全員に、教区からの記念品として「天理カレー」を配布した。



第18回 陽気フォーラム

日時 10月5日 9時30分受付
10時～14時
場所 教務支庁
講師 檀割孝美・北三陸分教会長
参加費 千円(昼食含む)